

中小企業景況調査報告書

平成 29 年 10 ～ 12 月期 実績

平成 30 年 1 ～ 3 月期 見通し

始良市商工会

(平成 29 年 12 月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

この報告書の中で、用いられている D・I 指数とは、デフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	---	--

1. 調査対象期間 平成 29 年 10～12 月期を対象とし、調査時点は平成 29 年 11 月 1 日とした。
平成 30 年 1～3 月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 15 企業（※始良市の 15 企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：3 企業 建設業：2 企業 小売業：4 企業 サービス業：6 企業

県内産業別業況 DI

		製造業	建設業	小売業	サービス業
対前年 同月比	28 年 10 月～12 月期	 0.0	 50.0	 ▲50.0	 ▲66.6
	29 年 1 月～3 月期	 ▲33.3	 0.0	 ▲50.0	 ▲33.3
	29 年 4 月～6 月期	 33.3	 50.0	 ▲25.0	 0.0
	29 年 7 月～9 月期	 0.0	 50.0	 ▲100.0	 ▲33.3
	29 年 10 月～12 月期	 33.3	 50.0	 ▲50.0	 ▲50.0
	来期見通し(1～3 月期)	 33.3	 50.0	 ▲75.0	 0.0

総合（業況）

前年同期（平成 28 年 10 月～12 月期）と比較した今期（平成 29 年 10 月～12 月期）の業況は、製造業 33.3(前年同期 33.3 ポイント改善)、建設業 50.0(前年同期と変わらず)、小売業 ▲50.0(前年同期と変わらず)、サービス業 50.0(前年同期 16.6 ポイント改善)となった。

今期の状況は、前年同期と比較して、製造業が改善の方向に進んでおり、建設業も好調を維持している。しかしながら、小売業・サービスとも改善の兆しが見えず厳しい状況が窺える。来季の見通しもサービス業に改善の兆候が見えるものの小売業の不振が顕著である。

県内においても、小売業とサービス業の来期見通は、やや改善されると見込まれるものの、秋からの原材料の価格上昇に続き原油の高騰により小規模事業者を取り巻く環境は、ますます厳しい状況が続いている。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 3 企業

調査対象企業内訳：食料品(1)，窯業・土石製品(1)，衣類・その他繊維製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値
28年10月～12月期		0.0		0.0		0.0		0.0
29年1月～3月期		▲33.3		▲33.3		▲33.3		▲33.3
29年4月～6月期		66.6		33.3		0.0		33.3
29年7月～9月期		0.0		0.0		0.0		0.0
29年10月～12月期		66.6		0.0		▲33.3		33.3
来期見通し(1～3月期)		66.6		66.6		0.0		33.3

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・前年の同時期と比べ好転している。引き合いの増加、自社ブランドの依頼増加で、売上が上がっている。9月～3月の売上を伸ばし安定した利益の確保を図りたい。
- ・従業員の確保が難しく、派遣等に頼った事で人件費が増加している。原料価格が上昇しており、生産コストが前年に比べ増加している。

経営上の問題点

- ・人件費の増加、原材料価格の上昇、原材料費・人件費以外の経費の増加が上位を占める。従業員の確保難、製品単価低下・上昇難を問題とする企業もある。

【建設業】 有効回答数 2 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(1)，設備工事業(1)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値
28年10月～12月期		0.0		50.0		0.0		50.0
29年1月～3月期		▲50.0		0.0		0.0		0.0
29年4月～6月期		50.0		0.0		0.0		50.0
29年7月～9月期		0.0		0.0		0.0		50.0
29年10月～12月期		0.0		50.0		0.0		50.0
来期見通し(1～3月期)		50.0		50.0		0.0		50.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

経営上の問題点

- ・官公需要の停滞、熟練技術者の確保難、従業員の確保難が上位を占め、下請業者の確保難、請負単価の低下・上昇難を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 4 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(2)，織物・衣服・身の回り品(1)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	金額	アイコン	金額	アイコン	金額	アイコン	金額
28年10月～12月期	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0
29年1月～3月期	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0
29年4月～6月期	☁	0.0	☔	▲25.0	☔	▲25.0	☔	▲25.0
29年7月～9月期	☔	▲100.0	☔	▲100.0	☔	▲75.0	☔	▲100.0
29年10月～12月期	☔	▲75.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0
来期見通し(1～3月期)	☔	▲75.0	☔	▲75.0	☔	▲75.0	☔	▲75.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・来店される方の購入金額が少なくなっている。また来店客数にムラがある。特に土曜日、日曜日、祭日。
- ・大型店の影響が懸念される。

経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化、商品在庫の過剰、需要の停滞、同業者の進出が上位を占め、次に消費者ニーズの変化への対応、購買力の他地域への流出を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 6 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(4)，飲食店(2)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	金額	アイコン	金額	アイコン	金額	アイコン	金額
28年10月～12月期	☔	▲33.3	☔	▲50.0	☔	▲66.6	☔	▲66.6
29年1月～3月期	☔	▲16.6	☔	▲16.6	☔	▲16.6	☔	▲33.3
29年4月～6月期	☁	0.0	☔	16.6	☔	0.0	☔	0.0
29年7月～9月期	☔	▲16.6	☔	▲33.3	☔	▲16.6	☔	▲33.3
29年10月～12月期	☔	▲16.6	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	▲50.0
来期見通し(1～3月期)	☔	▲16.6	☔	▲50.0	☔	▲50.0	☔	0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・人口減少と高齢化で客足が途絶えた。また、合併により町役場から総合支所になり固定客が移動し利用しなくなった。
- ・経常利益が少しずつ減り、売上は上がるが利益が少ない。人件費の上昇、材料費・一般管理費等の上昇が原因となっている。販売価格を上げざるをえないが、お客様がどう思うか心配です。
- ・従業員の確保が全くできず減少する一方である。その為に全ての業務内容を見直し、今の人数で仕事が行えるよう大改革中である。
- ・人の流れが変わって、すっかり通りに人がいなくなった。自分たちで人を集める方法を考えなければならない。

経営上の問題点

- ・新規参入事業者の増加、大企業の進出による競争の激化、従業員の確保難、人件費以外の経費の増加、利用者ニーズの変化への対応、需要の停滞が上位を占め、また、店舗設備の狭隘・老朽化材料等仕入単価の上昇、人件費の増加、を問題点としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、底堅く推移している。観光は、基調としては堅調な動きとなっている。住宅投資は、横ばい圏内で推移している。公共投資は、増加している。生産は、持ち直している。

企業部門の動向を短観（12月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、増加基調にある。また、人手不足感は強まっている。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を下回って推移している。家電販売額は、前年を上回って推移している。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回った。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、前年を上回った。主要観光施設入場者数は、前年を下回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、食料品、はん用・生産用機械を中心に前月を下回った。

6. 雇用環境

求人数は増加基調、求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率（季節調整済）は、高水準で推移している。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。